

プロフィール



柴田 真郁 (指揮/6月公演)

1978年東京生まれ。国立音楽大学声楽科を卒業後、合唱指揮やアシスタント指揮者として藤原歌劇団、東京室内歌劇場等で研鑽を積む。2003年に渡欧、ドイツ各地で研鑽を積みながら、2004年にウィーン国立音楽大学マスターコースでディプロムを取得。2005年、バルセロナのリセウ大歌劇場のアシスタント指揮者オーディションに合格し、様々な上演に携わる。2010年には再度渡欧し、イタリアの劇場を中心に研鑽を積んだ。帰国後は主にオペラ指揮者として活動。近年では管弦楽にも力を入れ、国内主要オーケストラと共演。指揮を十東尚宏、星出豊、ティロ・レーマン、サルバドール・マス・コンデに師事。2010年五島記念文化財団オペラ新人賞(指揮)受賞。



松井 慶太 (指揮/9月公演)

1984年青森県八戸市生まれ。16歳のときピアニストとしてポーランド国立クラクフ交響楽団と共演。2007年東京音楽大学指揮科卒業。指揮を広上淳一、汐澤安彦に師事。2006年韓国で行われたアジア・フィルハーモニック・オーケストラにて指揮をジョン・ミョンフンに師事。2009年、第15回東京国際音楽コンクール入賞・奨励賞受賞。これまでに、ライプツィヒ交響楽団、プラハ交響楽団室内オーケストラ、ドナウ交響楽団や国内主要オーケストラを指揮。2008～2014年には、N響定期演奏会にてデュトワ、ミョンフン、ルイーダ、ソビエフらのもとで合唱指揮を務め、公演を成功に導く。2011～2018年東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンス。



大島 由美子 (司会)

名古屋音楽大学卒業。NTB所属。各局リポーター、イベントMCとしてお客様と一緒にの空間を楽しみながらMC活動を展開。現在は80.7MHz(エフエム愛知)にて「名フィル クラシック・スクエア」パーソナリティを担当。クラシックの魅力の名フィルのメンバーとともに伝えている。

名古屋フィルハーモニー交響楽団 (管弦楽)

愛知県名古屋市を中心に、東海地方を代表するオーケストラとして、広く日本中に話題を発信。“名フィル”の愛称で親しまれ、日本のプロ・オーケストラとして確固たる地位を築いている。2016年より日本を代表する指揮者である小泉和裕が音楽監督を務め、他に現在の指揮者陣には、小林研一郎(桂冠指揮者)、モーシェ・アツモン(名誉指揮者)、ティエリー・フィッシャー(名誉客演指揮者)、川瀬賢太郎(正指揮者)が名を連ねている。楽団結成は1966年7月。現在はバラエティに富んだ年間約110回の演奏会に出演している。

知っていますか?

～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。



令和3年度

文化芸術による 子供育成総合事業 -巡回公演事業-

名古屋フィルハーモニー交響楽団 《オーケストラ公演》

文化芸術による子供育成総合事業 -巡回公演事業-

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

オーケストラを 味わおう!

小学生プログラム

1 豊かな響きを味わおう
ビゼー：歌劇『カルメン』組曲より『闘牛士』

楽器の音色を味わおう
楽器紹介コーナー

2 ユーモラスな“音”を味わおう
アンダーソン：シンコペイテッド・クロック

3 一体感を味わおう①
皆さんが選んだ1曲でオーケストラと共演!

4 曲の変化を味わおう
グリーグ：4つのノルウェー舞曲 作品35より第2番

5 イメージしながら音楽を味わおう
チャイコフスキー：バレエ『くるみ割り人形』組曲 作品71aより『行進曲』

6 日本の音楽を味わおう
外山雄三：管弦楽のためのラプソディより『八木節』

7 一体感を味わおう② ボディ・パーカッション
オッフェンバック：喜歌劇『天国と地獄』より『フレンチ・カンカン』

8 表現を味わおう～指揮者体験～
ブラームス：ハンガリー舞曲第5番

9 映画音楽を味わおう
パデルト：映画『パイレーツ・オブ・カリビアン』

10 オーケストラの名曲を味わおう
シベリウス：交響詩『フィンランディア』 作品26

11 ベートーヴェン：交響曲第5番八短調 作品67『運命』より第1楽章

エルガー：行進曲『威風堂々』第1番 作品39-1

※9～11は皆さんが選んだ1曲を演奏します。

曲目解説

1 ビゼー： 歌劇『カルメン』組曲より『闘牛士』

フランスの作曲家ジョルジュ・ビゼーの代表作である歌劇(オペラ)『カルメン』は、スペインの都市セビリヤを舞台に、カルメンという名前の女性をめぐる恋のお話と音楽で描かれた作品です。「闘牛士」は、勇ましく闘牛士たちが登場する行進曲で始まり、途中には情熱的な闘牛士の歌が高らかに演奏されます。

5 外山雄三： 管弦楽のためのラプソディより『八木節』

外山雄三は1981年から1987年まで名古屋フィルの音楽総監督兼常任指揮者を務めている、日本を代表する指揮者のひとりです。作曲家としても有名で、「管弦楽のためのラプソディ」は1960年のNHK交響楽団世界ツアーのために作曲されました。日本古来の民謡を引用したこの作品から、拍子木やチャンキといった打楽器も使用される「八木節」を演奏します。

9 シベリウス： 交響詩『フィンランディア』 作品26

北欧フィンランドが誇る作曲家ジャン・シベリウスは、愛する祖国がロシアの支配から解放されることを願い、『フィンランディア』を作曲しました。演奏を禁止された時代でも、人々は歌詞を付けて歌ったり、タイトルを替えたりして演奏し続けました。後に独立を果たしたフィンランドの背景には、この曲の存在があったと言われています。

2 アンダーソン： シンコペイテッド・クロック

ルロイ・アンダーソンはハーヴァード大学で研究員をしていましたが、フィードラーという指揮者に勧められ作曲家となり、本日演奏する「シンコペイテッド・クロック」などのヒット作を次々と生み出しました。「壊れた時計」とも訳されるこの作品では、ウッド・ブロックが時計の針のように、“チク・タク”とリズムを刻むのが特徴的です。

6 オッフェンバック： 喜歌劇『天国と地獄』より『フレンチ・カンカン』

ジャック・オッフェンバックはパリで活躍した作曲家で、自分の劇場で喜歌劇(オペレッタ)を上演して人気を博しました。代表作『天国と地獄』はギリシャ神話のパロディ作品で、終盤、地獄で神々が宴会をするシーンで演奏されるのが「フレンチ・カンカン」と呼ばれる部分です。運動会でもおなじみの1曲で、皆さんの身体を楽器にしたボディ・パーカッションでオーケストラと共演しましょう。

10 ベートーヴェン： 交響曲第5番八短調 作品67『運命』より第1楽章

ドイツに生まれたルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンは、難聴の恐怖をはじめ数々の困難と戦いながら、強い精神力で名曲を生み出し続けました。「傑作の森」と呼ばれる充実した時期の代表作「交響曲第5番」は、冒頭の「ダ・ダ・ダ・ダーン」(楽譜参照)でおなじみです。ベートーヴェンは「運命はこのように扉をたたき」と語ったとも伝えられ、そこから「運命」というニックネームが付けました。本日演奏する第1楽章では、このフレーズが様々な形を変えて何度も表れ、高い緊張感に包まれています。

3 グリーグ： 4つのノルウェー舞曲 作品35より第2番

エドヴァルド・グリーグはノルウェーの作曲家で、古くから伝わる民謡や舞曲を収集していました。その音楽をピアノ連弾用に4曲の「ノルウェー舞曲」としてまとめており、後に別の作曲家によって管弦楽版に編曲されました。「第2番」は、オーボエによって奏でられるかわいらしい旋律が、中間部にはガラリと姿を変えます。

7 ブラームス： ハンガリー舞曲第5番

ロマ(ジプシー)に伝わる音楽を、全21曲の曲集にまとめたドイツの大作家ヨハネス・ブラームス。その中から、小気味良いリズムと変わるテンポで有名な「第5番」で、皆さんにオーケストラの指揮者を体験していただきます。

4 チャイコフスキー： バレエ『くるみ割り人形』組曲 作品71aより『行進曲』

「白鳥の湖」、「眠りの森の美女」に続くピョートル・チャイコフスキーの「三大バレエ」のひとつ『くるみ割り人形』は、クリスマスの夜に少女が人形をもらい、不思議な体験をする童話をもとにしたバレエのための音楽です。「行進曲」はクリスマス・ツリーの下、プレゼントが渡され、子供たちが喜び場面で演奏されます。

8 パデルト： 映画『パイレーツ・オブ・カリビアン』

東京ディズニーランドでもおなじみのアトラクション「カリブの海賊」をモチーフに、2003年に公開された映画『パイレーツ・オブ・カリビアン』は、ジョニー・デップ演じる海賊ジャック・スパロウが活躍する作品です。本日は「霧の境界線」、「黄金のメダル」、「海賊の洞窟へ」、「ブラックパール号」、「最新の銃弾」、そしてメインテーマ「彼こそが海賊」の6曲を、モドレーにてお贈りします。

11 エルガー： 行進曲『威風堂々』第1番 作品39-1

イギリスの作曲家エドワード・エルガーが作曲した『威風堂々』第1番は、当時から熱狂的な人気があり、国王エドワード7世も絶賛。有名な中間部分は後に歌詞が付けられ、「希望と栄光の国」という名前でもイギリス第二の国歌としても親しまれています。日本でも歌詞を付けて歌われたり、卒業式で演奏されたりとおなじみの1曲です。



ワークショップを覚えているかな?

オーケストラを構成する楽器たち



ヴァイオリン

ヴィオラ

チェロ

コントラバス

ハープ

フルート

オーボエ

クラリネット

ファゴット

ホルン

トランペット

トロンボーン

テューバ

打楽器

プロフィール



しばた まいく
柴田 真郁(指揮/6月公演)

1978年東京生まれ。国立音楽大学声楽科を卒業後、合唱指揮やアシスタント指揮者として藤原歌劇団、東京室内歌劇場等で研鑽を積む。2003年に渡欧、ドイツ各地で研鑽を積みながら、2004年にウィーン国立音楽大学マスターコースでディプロムを取得。2005年、バルセロナのリセウ大歌劇場のアシスタント指揮者オーディションに合格し、様々な上演に携わる。2010年には再度渡欧し、イタリアの劇場を中心に研鑽を積んだ。帰国後は主にオペラ指揮者として活動。近年では管弦楽にも力を入れ、国内主要オーケストラと共演。指揮を十東尚宏、星出豊、ティロ・レーマン、サルバドール・マス・コンデに師事。2010年五島記念文化財団オペラ新人賞(指揮)受賞。



まつい けい た
松井 慶太(指揮/9月公演)

1984年青森県八戸市生まれ。16歳のときピアニストとしてポーランド国立クラクフ交響楽団と共演。2007年東京音楽大学指揮科卒業。指揮を広上淳一、汐澤安彦に師事。2006年韓国で行われたアジア・フィルハーモニック・オーケストラにて指揮をチョン・ミョンフンに師事。2009年、第15回東京国際音楽コンクール入賞・奨励賞受賞。これまでに、ライプツィヒ交響楽団、プラハ交響楽団室内オーケストラ、ドナウ交響楽団や国内主要オーケストラを指揮。2008～2014年には、N響定期演奏会にてデュトワ、ミョンフン、ルイーダ、ソヒエフらのもとで合唱指揮を務め、公演を成功に導く。2011～2018年東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンス。



おshima ゆみ こ
大島 由美子(司会)

名古屋音楽大学卒業。NTB所属。各局リポーター、イベントMCとしてお客様と一緒にの空間を楽しみながらMC活動を展開。現在は80.7MHz(エフエム愛知)にて「名フィル クラシック・スクエア」パーソナリティを担当。クラシックの魅力を名フィルのメンバーとともに伝えている。

名古屋フィルハーモニー交響楽団(管弦楽)

愛知県名古屋市を中心に、東海地方を代表するオーケストラとして、広く日本中に話題を発信。“名フィル”の愛称で親しまれ、日本のプロ・オーケストラとして確固たる地位を築いている。2016年より日本を代表する指揮者である小泉和裕が音楽監督を務め、他に現在の指揮者陣には、小林研一郎(桂冠指揮者)、モーシェ・アツモン(名誉指揮者)、ティエリー・フィッシャー(名誉客演指揮者)、川瀬賢太郎(正指揮者)が名を連ねている。楽団結成は1966年7月。現在はバラエティに富んだ年間約110回の演奏会に出演している。

知ってますか?

～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

令和3年度

文化芸術による 子供育成総合事業 —巡回公演事業—



名古屋フィルハーモニー交響楽団 《オーケストラ公演》

文化芸術による子供育成総合事業 —巡回公演事業—

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

オーケストラを 味わおう!

中学生プログラム

1 豊かな響きを味わおう
ビゼー：歌劇『カルメン』組曲より『闘牛士』

楽器の音色を味わおう

楽器紹介コーナー

2 ユーモラスな“音”を味わおう
アンダーソン：シンコペイテッド・クロック

一体感を味わおう①

みな
皆さんが選んだ1曲でオーケストラと共演!

3 曲の変化を味わおう
グリーグ：4つのノルウェー舞曲 作品35より第2番

4 イメージしながら音楽を味わおう
チャイコフスキー：バレエ『くるみ割り人形』組曲
作品71aより『行進曲』

5 日本の音楽を味わおう
外山雄三：管弦楽のためのラプソディより『八木節』

一体感を味わおう②

ボディ・パーカッションまたは吹奏楽で
オーケストラと共演!

6 表現を味わおう～指揮者体験～
ブラームス：ハンガリー舞曲第5番

7 映画音楽を味わおう
パデルト：映画『パイレーツ・オブ・カリビアン』

8 オーケストラの名曲を味わおう
シベリウス：交響詩『フィンランディア』 作品26

9 ベートーヴェン：交響曲第5番八短調
作品67『運命』より第1楽章

10 エルガー：行進曲『威風堂々』第1番
作品39-1

※8～10は皆さんが選んだ1曲を演奏します。

曲目解説

1 ビゼー：
歌劇『カルメン』組曲より『闘牛士』

フランスの作曲家ジョルジュ・ビゼーの代表作である歌劇(オペラ)『カルメン』は、スペインの都市セビリヤを舞台に、カルメンという名前の女性をめぐる恋のお話が歌と音楽で描かれた作品です。「闘牛士」は、勇ましく闘牛士たちが登場する行進曲で始まり、途中には情熱的な闘牛士の歌が高らかに演奏されます。

5 外山雄三：
管弦楽のためのラプソディより『八木節』

外山雄三は1981年から1987年まで名古屋フィルの音楽総監督兼常任指揮者を務めている、日本を代表する指揮者のひとりです。作曲家としても有名で、「管弦楽のためのラプソディ」は1960年のNHK交響楽団世界ツアーのために作曲されました。日本古来の民謡を引用したこの作品から、拍子木やチャンキといった打楽器も使用される「八木節」を演奏します。

8 シベリウス：
交響詩『フィンランディア』 作品26

北欧フィンランドが誇る作曲家ジャン・シベリウスは、愛する祖国がロシアの支配から解放されることを願い、「フィンランディア」を作曲しました。愛国心を高めると政府によって演奏を禁止された時代でも、人々は歌詞を付けて歌ったり、タイトルを替えたりして演奏し続けました。後に独立を果たしたフィンランドの背景には、この曲の存在があったと言われています。

2 アンダーソン：
シンコペイテッド・クロック

ルロイ・アンダーソンはハーヴァード大学で研究員をしていましたが、フィードラーという指揮者に勧められ作曲家となり、本日演奏する「シンコペイテッド・クロック」などのヒット作を次々と生み出しました。「壊れた時計」なども訳されるこの作品では、ウッド・ブロックが時計の針のように、“チク・タク”とリズムを刻むのが特徴的です。

6 ブラームス：
ハンガリー舞曲第5番

ドイツの大作曲家ヨハネス・ブラームスは、レメニというハンガリーのヴァイオリニストと演奏旅行に出かけ、ロマ(ジプシー)に伝わる音楽を教してもらいます。そのメロディーを少しずつ楽譜に書き起こし、21曲の「ハンガリー舞曲」としてまとめました。本日はその中から、小気味良いリズムと変わるテンポで有名な「第5番」で、皆さんの身体を楽器にしたボディ・パーカッションでオーケストラと共演しましょう(選択校のみ)。さらに皆さんの中から数名に、オーケストラの指揮者を体験していただきます。

9 ベートーヴェン：
交響曲第5番八短調 作品67『運命』より第1楽章

ドイツに生まれたルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンは、難聴の恐怖をはじめ数々の困難と戦いながら、強い精神力で名曲を生み出し続けました。“傑作の森”と呼ばれる充実した時期の代表作「交響曲第5番」は、冒頭の“ダ・ダ・ダ・ダーン”(楽譜参照)でおなじみです。ベートーヴェンは「運命はこのように扉をたたたく」と語ったとも伝えられ、そこから「運命」というニックネームが付けました。本日演奏する第1楽章では、このフレーズが様々な

形を変えて何度も表れ、高い緊張感に包まれています。



3 グリーグ：
4つのノルウェー舞曲 作品35より第2番

エドヴァルド・グリーグはノルウェーの作曲家で、古くから伝わる民謡や舞曲を収集していました。その音楽をピアノ連弾用に4曲の「ノルウェー舞曲」としてまとめており、後に別の作曲家によって管弦楽版に編曲されました。「第2番」は、オーボエによって奏でられるかわいらしい旋律が、中間部にはガラリと姿を変えます。

4 チャイコフスキー：
バレエ『くるみ割り人形』組曲 作品71aより『行進曲』

『白鳥の湖』、『眠りの森の美女』に続くピョートル・チャイコフスキーの「三大バレエ」のひとつ『くるみ割り人形』は、クリスマスの夜に少女が人形をもらい、不思議な体験をする童話をもとにしたバレエのための音楽です。「行進曲」はクリスマス・ツリーの下、プレゼントが渡され、子供たちが喜ぶ場面で演奏されます。

7 パデルト：
映画『パイレーツ・オブ・カリビアン』

東京ディズニーランドでもおなじみのアトラクション「カリブの海賊」をモチーフに、2003年に公開された映画『パイレーツ・オブ・カリビアン』は、ジョニー・デップ演じる海賊ジャック・スパロウが活躍する作品です。映画同様に大ヒットしたサウンドトラックから、本日は「霧の境界線」、「黄金のメダル」、「海賊の洞窟へ」、「ブラックパール号」、「最期の銃弾」、そしてメインテーマ「彼こそが海賊」の6曲を、ドレーンにてお贈りします。

10 エルガー：
行進曲『威風堂々』第1番 作品39-1

イギリスを代表する作曲家エドワード・エルガーが作曲した「威風堂々」第1番は、当時から熱狂的な人気があり、国王エドワード7世も絶賛しました。有名な中間部分は後に歌詞が付けられ、「希望と栄光の国」という名前がイギリス第二の国歌としても親しまれています。日本でも歌詞を付けて歌われたり、卒業式で演奏されたりとおなじみの1曲です。

ワークショップを覚えているかな?

オーケストラを構成する楽器たち



ヴァイオリン

ヴィオラ

チェロ

コントラバス

ハープ

フルート

オーボエ

クラリネット

ファゴット

ホルン

トランペット

トロンボーン

チューバ

打楽器